

第 112 回・日商簿記検定試験 3 級 第 1 問 仕訳問題類題

次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

当座預金	普通預金	定期預金	受取手形
売掛金	繰越商品	立替金	前払金
仮払金	未収金	土地	支払手形
買掛金	当座借越	預り金	前受金
仮受金	未払金	引出金	売上
受取手数料	通信費	発送費	支払手数料
旅費交通費	消耗品費	仕入	雑費

1. 仕入先前田商店から商品 800,000 円を仕入れ、代金のうち 450,000 円については、柴田商店振り出し、佐々商店受け取りの約束手形を裏書譲渡し、200,000 円については、かねてより売掛金のある得意先明智商店を名宛人、前田商店を受取人とする為替手形（引受済み）を振り出して支払い、残額は掛けとした。
2. すでに普通預金口座を開設している織田銀行滝川支店に、新たに当座預金口座を開設し、普通預金から 300,000 円を引き出して、当座預金に預け入れた。同時に、借越限度額を 400,000 円とする当座借越契約も結んだ。なお、当座預金からの借り越しについては、当座借越勘定を用いることとした。
3. 得意先氏家商店から商品 200,000 円の注文を受け、本日、同商店から当座預金口座に 50,000 円の振込があった。この振込額のうち、20,000 円については注文品の内金であるが、残額については原因不明のため、現在、同店に対して問い合わせ中である。
4. 小口現金係から、次のように支払の報告を受けたため、ただちに小切手を振り出して資金を補給した。なお、本店では定額資金前渡法（インプレストシステム）により、小口現金係から毎週金曜日に 1 週間の支払報告を受け、これに基づいて資金を補給している。

【通信費 6,000 円】【消耗品費 4,000 円】【雑費 1,000 円】

5. かねて仕入先安藤商店から商品 400,000 円を仕入れ、代金のうち 300,000 円については同店振り出し、当店あての為替手形を呈示されたため、それを引き受け、残額については全額掛けとして処理していたが、本日、本商品注文時に 30,000 円を内金として支払っていたことが判明したため、訂正を行うこととした。なお、この取引から生じた買掛金について、決済は行われていない。

・解答

	仕訳			
	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	800,000	受取手形 売掛金 買掛金	450,000 200,000 150,000
2	当座預金	300,000	普通預金	300,000
3	当座預金	50,000	前受金 仮受金	20,000 30,000
4	通信費 消耗品費 雑費	6,000 4,000 1,000	当座預金	11,000
5	買掛金	30,000	前払金	30,000

・解説

1. 仕入取引に関する問題です。この問題は【裏書手形に関する仕訳】【為替手形に関する仕訳】【掛け仕入に関する仕訳】に分けて考えると分かりやすいです。

・裏書手形に関する仕訳

問題文に「代金のうち 450,000 円については、柴田商店振り出し、佐々商店受け取りの約束手形を裏書譲渡」とありますから、当店が所有している受取手形を前田商店に譲渡する仕訳をきることになります。

★解答①

(借) 仕入 450,000 / (貸) 受取手形 450,000

・為替手形に関する仕訳

問題文に「200,000 円については、かねてより売掛金のある得意先明智商店を名宛人、前田商店を受取人とする為替手形（引受済み）を振り出して支払い」とありますので、為替手形を振り出したことが分かります。これに関しては得意先である明智商店との間で以下の会話があったとイメージすると分かりやすいかもしれません。

当店・・・「どうも～。将来、本能寺で悪いことする予定の明智光秀社長はいますか～？」

得意先・・・「ぎくり！ど、ど、どうも。きよ、きよ、今日はどうしたんですか？」

当店・・・「そうそう、うちっておたくに対する売掛金ありましたよねえ」

得意先・・・「確かにあるけど、支払いはもうちょっと待ってくださいね」

当店・・・「あのさー、信長には秘密にしておくから、その売掛金使って仕入してもいいかなあ？」

得意先・・・「為替手形を振り出して仕入代金を払いたい、ということですか？」

当店・・・「そうなんですよ～。手形引き受けてくれます？」

得意先・・・「じゃあその手形を引き受けます。手形に判子押しておきますね」

当店・・・「ありがと～。これで仕入先の人に渡せるよ。手形分だけ売掛金減らしておくね」

得意先・・・「いえいえ。じゃあうちもお宅に対する買掛金を減らしておきます・・・やれやれ」

いかがでしょうか？為替手形の問題は当社の仕訳だけでなく、得意先や仕入先の仕訳も一緒に考えると分かりやすいと思います。なお、本問の三者の仕訳は以下のようになります。

★解答②（当店の仕訳）

（借）仕入 200,000 / （貸）売掛金 200,000

☆補足・得意先（明智商店）の仕訳

（借）買掛金 200,000 / （貸）支払手形 200,000

☆補足・仕入先（前田商店）の仕訳

（借）受取手形 200,000 / （貸）売上 200,000

・掛け仕入に関する仕訳

残額の 150,000 円については、通常の掛け仕入ですから特に問題は無いと思います。

★解答③

（借）仕入 150,000 / （貸）買掛金 150,000

上記の①②③の仕訳をまとめると解答の仕訳になります。本問はやや難易度の高い問題ですので、間違えてしまった方も多いと思いますが、ひとつひとつに分解して考えれば十分正解にたどりつける問題です。

2. 当座預金への預け入れに関する問題です。本問では、お金の流れが「普通預金→当座預金」なのか「普通預金→現金→当座預金」なのか明示されていませんが、**理論的にはどちらの仕訳でも正解**となります。

ただ、本問の場合、問題文の勘定科目に「現金」勘定がありませんので、「普通預金→当座預金」のほうで仕訳を切ると判断することになります。

取引自体はとても簡単なものです。なお、問題文の「同時に、借越限度額を 400,000 円とする当座借越契約も結んだ」という一文はダミーデータですので、仕訳を切る際に考慮する必要はありません。

3. 仮受金・前受金に関する問題です。両者の違いについてはきちんと区別できるようにしておいてください。目的がはっきりしていない場合は仮受金で、目的がはっきりしている場合は前受金と考えることも出来ますし、以下のようにまとめることも出来ます。

■ 仮受金と前受金の違い

- ・ 仮受金・・・何のためのお金か分からないまま（とりあえず仮に）受け取った場合に計上する勘定
- ・ 前受金・・・なんのためのお金か分かっている（取引の前に）受け取った場合に計上する勘定

本問の場合、問題文に「20,000 円については注文品の内金である」とあり、振り込まれたお金が注文品の内金と分かっているので、**前受金として処理**することになります。

一方、残りの 30,000 円については「残額については原因不明のため、現在、同店に対して問い合わせ中である」とあり、振り込まれたお金が何のためのものか判明していませんので、**仮受金として処理**することになります。

仮受金と前受金に関する問題は、第 101 回の問 1や第 109 回の問 5、第 116 回の問 3、第 125 回の問 3、第 127 回の問 4などでも出題されていますので、併せて確認しておいてください。

4. 小口現金に関する問題です。小口現金の処理に関しては 2 つのステップで考えると分かりやすいです。まず、1 つめのステップで「**支払報告と小口現金を補給が同時だったかどうか**」を考えます。

例えば、問題文に「**ただちに補給した**」というような一文があれば、支払報告と補給が同時であったと判断することが出来ますので、小口現金勘定を経由してもしなくても正解となりますが、逆に、同時でない旨の指示があった場合は小口現金勘定を経由して仕訳を切らなければなりません。

なお、本問のように支払報告と補給が同時だったかどうかについて**明確に読み取ることが出来ない場合は、小口現金勘定を経由してもしなくても正解**となります。

■ステップ1・支払報告と小口現金を補給が同時だったかどうか？

- ・報告と補給の時期が同時の場合・・・小口現金を経由してもしなくても正解（→ステップ2へ）
- ・報告と補給の時期が同時でない場合・・・小口現金を経由しなければならない（→確定）
- ・報告と補給の時期が不明の場合・・・小口現金を経由してもしなくても正解（→ステップ2へ）

もともと、近年の試験問題で「支払報告と補給のタイミングが同時でない場合」の問題が出題されたことはありませんので、ステップ1については参考程度に知っておいていただければ結構です。実質的な判断はステップ2で行います。

それでは早速ステップ2に移りますが、ステップ2では「勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定があるかどうか」で判断することになります。先ほど、支払報告と補給のタイミングが同じまたは不明の場合は、小口現金勘定を経由してもしなくても正解となると書きましたが、勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定がない場合は、当たり前ですが「小口現金」勘定を使って仕訳を切ることが出来ません。

■ステップ2・勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定があるかどうか？

- ・勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定がある場合・・・小口現金を経由してもしなくても正解
- ・勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定がない場合・・・小口現金を経由すると不正解

ここで、本問を2つのステップにあてはめて考えてみますと、問題文に「**ただちに小切手を振り出して資金を補給した**」とありますので、「報告と補給の時期が同時」と判断しステップ2へ進みます。

ステップ2では、勘定科目の選択肢に「小口現金」勘定があるかどうかをチェックすることになりますが、本問の選択肢には「小口現金」勘定がありませんので**小口現金を経由せずに仕訳を切ると判断することになります。**

小口現金に関する問題は、第103回の問2や第105回の問3、第113回の問5、第121回の問4、第126回の問2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。実際に比較していただければお分かりになると思いますが、いずれの問題もほとんど同じ形式で出題されています。

5. 前払金に関する問題です。本問のように、既に切られた仕訳を前提として考える問題は【①既に切られた仕訳】→【②正しい仕訳】→【①から②に直すための仕訳】という順番で考えていくと簡単です。それでは早速、確認してみましょう。

■①既に切られた仕訳

☆注文時

(借) 前払金 30,000 / (貸) 現金など 30,000

☆仕入時

(借) 仕入 400,000 / (貸) 支払手形 300,000
(貸) 買掛金 100,000

■②正しい仕訳

☆注文時

(借) 前払金 30,000 / (貸) 現金など 30,000

☆仕入時

(借) 仕入 400,000 / (貸) 支払手形 300,000
(貸) 買掛金 70,000
(貸) 前払金 30,000

■既に切られた仕訳→正しい仕訳に修正する仕訳

★解答

(借) 買掛金 30,000 / (貸) 前払金 30,000

このように分けて考えるととても簡単な問題ということがお分かりいただけると思います。いきなり解こうとすると貸借を逆に書いてしまったりするので、まずは上記のように分けて考えるようにしてください。

ちなみに、慣れてきたらダイレクトに仕訳を切ることも出来ます。管理人がこの問題を解く際は、問題文の「30,000円を内金として支払っていたことが判明したため、訂正を行うこととした」から前払金を貸方に計上し、「この取引から生じた買掛金について、決済は行われていない」から、その相手勘定は買掛金だな、と判断して一気に仕訳を切ります。

訂正仕訳に関する問題は、第115回の問2でも出題されていますので、併せて確認しておいてください。